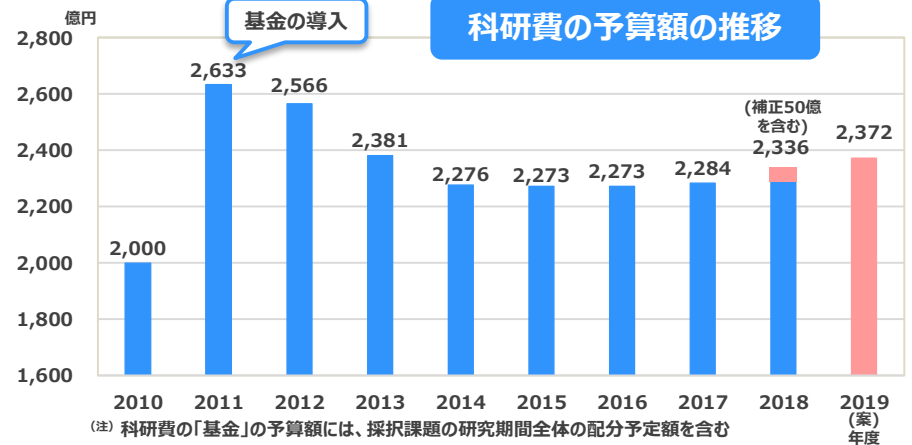


事業概要

- 人文学・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を格段に発展させることを目的とする「競争的資金」
- 大学等の研究者に対して広く公募の上、複数の研究者(7,000人以上)が応募課題を審査するピアレビューにより、厳正に審査を行い、豊かな社会発展の基盤となる独創的・先駆的な研究に対して研究費を助成
- 科研費の配分実績(2018年度)
 - ・応募約10万件に対し、新規採択は約2.6万件
 - ・継続課題と併せて、年間約7.5万件の研究課題を支援
- 中核的研究種目の充実を通じた「科研費若手支援プラン」の実行により、**若手研究者への支援を重点的に強化**するとともに**国際共同研究を加速**し、科研費改革を着実に推進する



2019年度事業の骨子

1. 中核的研究種目の充実を通じた「科研費若手支援プラン」の実行

- 「**若手研究**」及び「**研究活動スタート支援**」(*)を抜本的に拡充するなど大型種目を含めた科研費の配分を若手研究者を中心とした種目にシフトし、併せて「**研究活動スタート支援**」を新たに基金化
- (*) 「研究活動スタート支援」は、若手研究者を中心に、研究活動のスタートを最初に支援し、その後の研究への円滑なステップアップを促進する種目
- 若手研究者のキャリア形成に応じた支援を強化するため、国際競争下での研究の高度化に欠かせない、より規模が大きい「**基盤研究(B)**」を拡充して若手研究者を積極的に採択するとともに、学術研究の多様性と裾野の広がりを支える「**基盤研究(C)**」を拡充

2. 国際共同研究の推進(「国際共同研究加速基金」の拡充)

- 若手研究者の参画を必須として国際共同研究を加速する「**国際共同研究強化(B)**」を拡充
- 海外の研究機関に所属する優秀な若手研究者等の帰国後の研究を支援する「**帰国発展研究**」を拡充
- 科研費に海外渡航時の研究費の中断制度を導入(制度改善事項)

科研費の研究種目体系

